

第 38 回 木津川上流河川環境研究会

議事概要（案）

【開催概要】

開催日時： 令和 5 年 3 月 6 日(月曜日) 10:00~12:00

開催場所： 会場：京都国道事務所 5 階 第 1 会議室、WEB と併用で実施

【出席者】

委員： 会場 4 名（角座長、海老瀬委員、竹林委員、堀委員）

WEB 2 名（藤村委員、松井委員）

欠席 2 名（平山委員、森委員）

事務局： 会場 木津川上流河川事務所 6 名（小寺所長、矢間副所長、長坂調査課長、岡田建設専門
官、木村流域調整係長、佐治係員）

WEB 木津川上流河川事務所 3 名（岡野管理課長、前田工務課長、松本係員）

事務局オブザーバー：会場 水資源機構 木津川ダム総合管理所 3 名（國枝所長、梶谷調整課長、菊
地主査）

WEB 水資源機構 関西・吉野川支社 淀川本部 2 名（大島事業課長、下川課長補佐）

聴講者： WEB 河川部 3 名（瀧澤河川保全管理官、吉村河川計画課 課長補佐、古川流域調整係長）

WEB 淀川河川事務所 1 名（吉井地域連携係長）

WEB 紀伊山系砂防事務所 2 名（小杉調査課長、安田調査係長）

WEB 関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業本部 2 名（島口運営 G マネージャー、松
田京都水力センター係長）

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事

(1) 前回 第 37 回研究会および各ワーキングでの指摘対応の確認

(2) 堰・魚道 連続性再生検討について

- ・木津川上流縦断連続性再生検討：今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)
- ・コクチバス対策検討：今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)
- ・上野遊水地横断連続性再生検討：今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)

(3) 河道内樹林管理検討について

- ・今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)

(4) 水量・水質検討について

- ・水量・水質に関する報告

(5) 土砂管理検討について

- ・木津川・名張川における土砂管理に関する取り組みについて
- ・木津川上流ダム群における土砂管理に関する取り組みについて

4. 閉 会

【配付資料】

- ◆議事次第 / 出席者名簿 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料 1 : 第 37 回木津川上流河川環境研究会等 指摘対応
- ◆資料 2-1 : 木津川上流 縦断連続性再生検討資料
- ◆資料 2-2 : コクチバス対策に関する調査検討資料
- ◆資料 2-3 : 上野遊水地 横断連続性再生検討資料
- ◆資料 3 : 河道内樹林管理検討資料
- ◆資料 4 : 水量・水質に関する報告資料
- ◆資料 5-1 : 木津川・名張川における土砂管理に関する取り組み
- ◆資料 5-2 : 木津川上流ダム群における土砂管理に関する取り組み

【審議内容】

(1) 前回 第 37 回研究会および各ワーキングでの指摘対応の確認

事務局より、前回 第 37 回研究会および各ワーキングでの指摘対応について説明を行った。
(質問や意見なし)

(2-1) 木津川上流 縦断連続性再生検討について

事務局より、木津川上流 縦断連続性再生に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・横断構造物でなく自然の落差による縦断連続性の分断箇所があることがわかったが、1 回の調査によるものであるため、別の時期にも確認した上で評価する必要がある。〈松井委員〉
- ・自然の落差は、流砂量の減少に伴う河床低下により生じた可能性もあるため、対策ができる可能性はある。また、横断工作物による落差も、近年、深掘れになり大きくなっているのであれば、対策ができる可能性がある。〈竹林委員〉
- ・昭和 27 年頃から全国的に空中写真が撮影されている。過去の写真や高齢者へのヒアリングにより、落差が生じた時期を確認できる可能性がある。〈角座長〉

⇒落差の経年的な変化は確認できていないため、次年度以降、過去の空中写真等も活用し、確認する。〈事務局〉

(2-2) コクチバス対策に関する調査検討について

事務局より、コクチバス対策に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・これまで産卵床が形成される物理環境について検討してきたが、産卵床では親魚が卵等を外敵から保護しているため、外敵や捕食状況等についても調査する必要がある。〈松井委員〉
- ・アユを増やすこととコクチバスを減らすことを目的としているため、アユとコクチバスの産卵時期や産卵条件となる河床材料や水温や流速等を整理することで、目標とする河床状況や水理条件が明確になる。〈角座長〉
- ・1m 以上の透視度計を用いる場合は、プラスチック製でなく、ガラス製を使用したほうが良い。〈海老瀬委員〉

(2-3) 上野遊水地 横断連続性再生検討について

事務局より、上野遊水地 横断連続性再生に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内

容について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・水田魚道に協力してくれる営農者が見つかったことは大きな進展であり、これをきっかけに協力者が増えていくとよい。〈松井委員、堀委員〉
 - ・堤脚水路内の泥の堆積や植生繁茂については、治水面と生物面ではトレードオフの関係となるため、それぞれの視点で許容できる基準を踏まえ、慎重に対応していかなければならない。〈松井委員〉
 - ・水田魚道の水量はどのようにコントロールされるのか。営農者にとって、水田の水が常時流れることは、受け入れにくいのではないかと。〈堀委員〉
- ⇒水田魚道は、かけ流しの水田でしか機能しないが、今回協力いただける水田は、かけ流しである。また、自動水管理システム等の新技術も活用することにより、取り組みを拡大していきたい。〈事務局〉
- ・横断連続性改善の取り組みは、今後の持続可能性も踏まえ、維持管理の担い手や受益者についても、考えていく必要がある。〈角座長〉
 - ・今後、河床低下が進行していくと、本川と樋管等との落差が拡大していく可能性がある。また、縦断連続性、横断連続性、コクチバス対策、土砂管理は相互に関連するため、これらの関係性を整理した上で、横断連続性の取り組みについて検討する必要がある。〈角座長〉

(3) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・伐採竹のバイオマス発電への活用が進んだことは大きな成果である。今後、活用が更に進むことを期待している。〈藤村委員〉
 - ・今後、大きな出水が生じ、試験区に土砂堆積した場合は、可能であれば経過観察して欲しい。〈藤村委員〉
- ⇒試験区は今後の河道掘削の範囲に含まれているが、掘削までは可能な限りモニタリングを継続する。〈事務局〉
- ・バイオマス発電の活用を更に進めるためには、伐採竹を安定的に届ける仕組みが有効であると考えられる。発電事業者の受け入れ態勢によるが、必要に応じ、ストックヤードの設置も検討するとよい。〈角座長〉
 - ・国や発電事業者だけでなく、地域へのメリットについても整理しておくとうい。〈角座長〉
 - ・再生可能エネルギーの活用は、今の時勢にあうものであり、国家的な課題でもあるため、積極的に進めて欲しい。〈角座長〉

(4) 水量・水質検討について

事務局より、水量・水質について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・名張市は下水道の整備が進み、県の平均下水道普及率に追いついたと見ることができる。伊賀市は下水道の整備が進んでおらず、今後の整備に期待する。〈海老瀬委員〉
- ・見える化マップで、平成17年度の水質と比較しているが、平成17年は代表的な渇水年である。また、令和4年も渇水年であり、さらに川上ダムの試験湛水に伴い、ダム下流の流量が減少し

ていた年にあたる。これらを踏まえ、豊水年とも比較することにより、流量の違いによる水質への影響や、川上ダムの試験湛水による水質への影響も確認して欲しい。〈海老瀬委員〉

・川上ダムの試験湛水に伴う流量の減少による水質への影響について評価して欲しい。〈角座長〉

⇒流量と水質と密接に関係するため、これらを踏まえとりまとめていく。また、川上ダムの試験湛水の水質への影響についても、必要な情報が整ったのち、とりまとめて報告させていただく。〈事務局〉

・透視度は50cmのガラス製透視度計で計測するのが正式な方法である。利便性等から100cmのプラスチック製透視度計を用いる場合が多いが、50cm以上では精度は低下するため、詳細な比較には適さない。〈海老瀬委員〉

⇒現地作業者の意見も確認しながら、計測方法について検討していく。〈事務局〉

(5) 土砂管理検討について

事務局より、木津川・名張川における土砂管理に関する取り組み及び事務局オブザーバーより、木津川上流ダム群における土砂管理の取り組みについて説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

・総合土砂管理は、縦断連続性再生検討、コクチバス対策検討、河道内樹林管理検討と関連するため、連携を図りながら進める必要がある。また、連携により、関係者の理解も深まり、新たな気づきも生まれる。〈角座長〉

・木津川上流河川事務所、水資源機構、関西電力で意見交換を行いながら、連携を図りながら、進めていって欲しい。〈角座長〉

・環境や土砂動態について、全体最適となるよう、できるだけ協力していきたいと考えている。〈聴講者 関西電力 島口氏〉

・相楽・大河原堰堤については、現在も土砂は通過していると理解しているが、今後、土砂管理を更に進めるために、木津川上流河川事務所、水資源機構、関西電力の連携体制を構築し、意見交換を密に行いながら進めていくことを期待する。〈角座長〉

(6) その他

事務局より、次年度の河川環境環境研究会等の開催予定について説明を行った。

以 上